



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 野中 直子  
4月号編集委員: 唐川 亜希子  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 歯学部の魅力は何か

歯学部長 榎 宏太郎



現職を拝命してから2年を経過し、学務関係の仕事にも大分慣れて、入学試験の全容も少しずつ把握して参りました。それに伴い、歯学部を支えてくれている皆様の献身的な努力を改めて知るとともに、組織の運営システムの機能性にも驚かされております。

中でも、若い新生や学生諸君と面談する機会が増えたことによって、平均的な学生像のみを曖昧に描いていた自分の想像をはるかに超える多様性の存在を知ることが出来ました。

そして、実は、これらの経験を通して、『果たして我々は歯学部の魅力を内外に十分に伝えているのだろうか?』という疑問をも抱き始めております。

もちろん、我々は、講義や実習を通じて、医療としての責任や遵守すべき内容、知らなければならない知識や最低限必要とされる技能などは十分に伝えております。しかし、文字にすることの出来ない生体の面白さや研究の楽しさ、診療の厳しさや達成感、職業に対する誇りや将来の夢、などが未だに伝えきれていないように思われます。様々な感動を与える機会や、魅力を知らせるための手段が少ないのかもしれませんが。

このことは、学内の教育に関することだけでなく、広く一般社会へ向けた発信という点においては、歯学部の研究や診療についても同様ではないでしょうか。とくに、教育の現場においては、能動的学習の重要性を示し、資料や教科書を用いた自己学習を奨励しております。しかし、それをスタートさせるための、重い車輪を動かす最初の一回転を生み出す熱いエネルギーが上手く伝達されておらず、心理的な契機を与えることが不十分であるようにも感じます。

この問題の解決は容易なことではなく、教える側の性格や情熱、経験値によっても影響されるでしょう。しかし、これは歯学部が抱える大きな課題であり、存続を賭けた危機として捉える必要があります。本年度も、止むことなく、教授会や委員会での討論を活発化して、何とか解決の端緒を見つけましょう。

ご存知のように、国試合格のためには過剰な記憶が課せられ、さらには、厳しい国の制約が設けられている状況です。その上、このコロナ禍に突入したことで、授業形態を変えざるを得ないという困難にも直面しております。デジタルを効果的に使う中長期計画をより具体的なものとして、他に類を見ない新たな教授方法や学習システムを創出し、一層の情熱を持って乗り切りましょう。

皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

## 富士吉田教育部兼務教育職員に就任しました

歯科理工学部門 柴田 陽

令和3年度より口腔解剖学講座の野中直子教授とともに富士吉田教育部兼任教員を拝命いたしました。私は昭和大学の卒業生ですので、富士吉田校舎の男子寮で人生初の共同生活を経験したことがあります。振り返ってみれば多くのことを学ぶことができました。4人部屋のルームメイトは皆医学部の男子、中にはそれなりの苦労人も。彼らと日常を富士吉田で1年間過ごすことによって、当時のバブル景気に浮かれた世の中とはフィジカル的にもメンタル面でもやや距離を置くことができたことはその後の人生に大きな影響を与えたと思われまふ。18歳の柴田少年にとって富士吉田は決して愉快的な場所ではありませんでしたが、都会暮らしに疲れたオジサンになってから訪れるとずいぶん違った印象になるものです。見飽きるくらい日常であった富士山や一面に広がる白樺の森も今は心を癒してくれます。ここ何年かは富士吉田で講義を担当しておりますが、講義室の窓から見える豊かな自然に“何だかカナダの大学みたいだな(行ったことはない)”と思ったりしていました。昨年から続くコロナ禍で運営側は大変なご苦勞をされているようです。“密を避ける”といった現在の風潮の中、寮生活という昭和大学の伝統は危機に瀕しています。そんなタイミングで今回の拝命、自分自身の人生において大きな分岐点となった昭和大学富士吉田キャンパスにいくばくかの恩返しができるよう、頑張っていきたいと存じます。

## 受賞

広報委員長 野中 直子

第36回歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い 優秀発表賞

歯科矯正学講座 塩津 瑠美

## 昭和大学入学式ならびに入寮式が行われました

歯学部長 榎 宏太郎

令和3年4月12日に、昭和大学入学式ならびに入寮式、そして、新入生へのアイデンティティ教育が行われました。



今年は、医学部116名、歯学部96名(編入3名)、薬学部200名、保健医療学部157名(編入2名)の新入生を迎えております。

このコロナ禍のため、入寮前には旗の台にて全新生のPCR検査が行われ、全員の陰性が確認されたからバスで富士吉田へ向かいました。全員が陰性という結果にも驚きましたが、医療を目指す若者やそのご家族の真摯な日常を垣間見たようにも思われま

す。当日の富士吉田は、やや肌寒いものの快晴に恵まれ、東京より2~3週間ほど遅れてちょうど咲きそろった桜が美しく彩りを添えておりました。

灰色がかった東京を早朝に出発し、大月を過ぎ、両脇を緑の山々に抱えられながら、富士吉田へと続く道をしばらく進むと、青く澄み切った空を背景に白い富士山が現れます。その時の高揚感と言うか、清々しさには、それまでよりも少し視界が明るくなるような力を感じます。そうして高速を降り、富士吉田校舎へと右折すると、自分が過ごした頃よりも近隣の建物が増えてはいるものの、カーブが続く道と深い樹林に、あの当時に戻って来たような懐かしさを感じます。つい数ヶ月前にも富士吉田を訪れて二度目なはずなのに不思議です。

今年は、新たな女子寮も完成し、その居室は、窓枠を額縁にした絵画のような眺望です。風呂には温泉も引かれており、誠に羨ましい限りです。

午前9時半、スクエアガーデンに全新生が集合し、厳かな雰囲気の中、入学式が開始されました。久光学長の告示では、医療人としての心構えについて温かくも強いメッセージが伝えられ、我々教職員までもが改めて自らを考える契機となりました。そして、小口理事長の祝辞では4学部のチームの重要性とさらに切磋琢磨によって大学全体として高い次元を目指そうという未来に向かった希望が示されました。さらに、続く、アイデンティティ教育では、本学の創立からの歴史が詳しく伝えられ、昭和大学に入学できたことを皆さんが実感されたことと思います。

その後、昼食を挟んでそれぞれの学部におけるアイデンティティ講義も開かれました。

コロナ感染から隔離された素晴らしい環境で、新入生諸君が存分にスポーツを楽しみ、新しい学問に触れて、多くの友人を作り、自らの明るい未来へ向けた第一歩とされることを心より祈念致します。

## 大学院入学式が行われました

歯学研究科長 高見 正道

令和3年4月3日午前10時より、昭和大学大学院入学式が上條記念館において挙行され、医学研究科49名、歯学研究科29名、薬学研究科17名、保健医療学研究科19名(修士過程13名・博士後期過程6名)が入学しました。歯学研究科の入学者のうち6名は社会人枠で、昭和大学以外の出身者は9名(1名は台湾出身)でした。

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策のために例年よりも時間を短縮して執り行われました。久光学長は、大学院における研究の意義について述べられ、小口理事長は、この不安定な社会情勢で大学院課程をしっかりと生き抜くよう激励されました。

各研究科長の挨拶で私は『新型コロナウイルス蔓延により世界全体が非常事態の状況にありながらも、私たちが昭和大学で自分の目的とする研究ができること自体、非常に幸せなことであることを知ってほしい』と述べました。最後に入学者代表として、保健医療学研究科の加藤京太郎さんが昭和大学宣言を行い、校歌の拝聴をもって閉会しました。

入学式の後、各研究科に分かれてオリエンテーションが開催され、弘中大学院運営委員長が、大学院における研究活動についての心構えや注意点についてお話されました。新たな気持ちで一歩を踏み出された入学者の皆さんのご活躍を期待しています。



## 昇任・採用

広報委員長 野中 直子

昇任

野中 直子 教授(口腔解剖学講座)

坂井 信裕 准教授(歯科薬理学講座)

採用

黒澤 実愛 助教(口腔微生物学講座)

## 上條賞(大学院)を受賞しました

歯科補綴学講座 小原 大宜

この度、昭和大学大学院修了式において上條賞(大学院)という名誉ある賞を受賞できたことを大変光栄に思います。大学院における私の研究テーマは「睡眠時ブラキシズムに対するオーラルアプライアンスを介した振動フィードバック刺激の効果:6週間の介入研究」です。歯科医師なら誰もが頭を悩ませる睡眠時ブラキシズムに対して、振動フィードバック刺激を用いた口腔内装置を開発し、その抑制効果を明らかにしました。私が大学院へ入学する以前から代々受け継がれてきた本研究を引き継ぎ、そして、皆様に認めていただける成果を残せたのも、馬場一美教授を始めとする研究チームの先生方、医局員の皆様のお力添えあってのことと思います。4年間を通して苦労したことばかりが思い出されますが、この研究成果が世に広まり、睡眠時ブラキシズムで悩まされている患者、または歯科医師の診療の一助となることを期待しております。今後、本賞受賞を糧としてより良い臨床、研究、教育を実践するとともに昭和大学のさらなる発展のため微力ながら貢献できたと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。



## 上條賞を受賞しました

歯科臨床研修医 陸田 愛実

この度は上條賞という名誉ある賞を受賞させていただき、誠にありがとうございます。

入学当初、期待と不安が飛び交う中で、寮生活がスタートしたことをつい昨日のように感じます。寮生活では、集団生活の大切さや学部を超えた連携により様々なことを学びました。



2年次からは旗の台に移動し、基礎・臨床科目の勉強が始まりました。最初は授業についていくことに必死だった記憶があります。

5年次では病院実習がスタートし、診療を見学することとなりました。患者さんの気持ちを理解し、寄り添い治療を進めていく先生方の姿は、医療従事者として大切な姿だと痛感しました。

6年次はコロナの影響もあり、例年通りの学習環境が確保できない中、大きな不安を抱え国家試験に臨まなければなりません。友人と支え合って乗り越えたこの1年を通して、自分自身大きく成長したように思います。

6年間を通し、苦楽を共にした友人は私の人生でかけがえのない財産です。

最後になりますが、在学中ご指導いただきました皆様に改めて心よりお礼申し上げます。「至誠一貫」の精神を常に心がけ、歯科医師として多くの患者さんに信頼されるよう精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 令和3年度科学研究費補助金交付内定状況

研究活動委員会 美島 健二

文部科学省と日本学術振興会は、令和3年度科学研究費補助金の交付内定を公表しました。歯学部全体の交付内定状況(4月13日把握分、研究活動スタート支援ならびに挑戦的萌芽研究新規分を除く)は下表の通りとなりました。昨年度と比較した採択率は基盤研究(C)で4.3%、若手研究で0.7%の増加となりました。一方、基盤研究(A)、(B)の新規採択はなく、本年度の課題としては、基盤研究(A)、(B)などの比較的大型の研究助成金の新規獲得を図ることと考えられます。研究活動委員会では、若手研究者を中心に申請書のブラッシュアップを継続的に実施していますが、今後、大型の研究費の獲得についても注力していきたいと考えています。ご不明な点は、歯学部研究活動委員会、SURAC研究支援課にお問い合わせください。

	令和3年度				
	新規				
	応募件数		採択件数		採択率(%)
件数	金額(千円)	件数	金額(千円)		
基盤研究(A)	0	0	0	0	
基盤研究(B)	4	34,829	0	0	0.0%
基盤研究(C)	86	170,275	20	27,000	23.3%
挑戦的研究(開拓)	2	8,245	未発表	未発表	
挑戦的研究(萌芽)	7	15,263	未発表	未発表	
若手研究	31	71,080	10	15,800	32.3%
合計	130	299,692	30	42,800	23.1%

## 鹿児島大学歯学部口腔病理解析学 分野教授に就任しました

鹿児島大学歯学部口腔病理解析学分野  
笹平 智則

昭和大学歯学部のみなさま、  
こんにちは。21期の笹平智則  
です。本年4月1日付けで鹿児  
島大学医歯学総合研究科腫瘍  
学講座口腔病理解析学分野の  
教授を拝命いたしました。職責  
の持つ重さに身が引き締まる  
思いです。卒後18年も母校と  
疎遠にしていまい、誇りを受けて然るべき立場の私が  
寄稿することに逡巡しましたが、せめてもの恩返しに  
と思い筆を執っております。



6年生の夏、口腔外科医を目指そうと訪れた奈良  
医大口腔外科の入局説明会で、桐田忠昭教授(現日  
本口腔外科学会理事長)から基礎研究の重要性を説  
かれました。口腔癌の分子機構や病理学にも興味があ  
った私は、腫瘍病理学(現分子病理学)の大学院  
への入学意思を伝えるべく、確か翌日の午前に桐田  
教授にお電話を差し上げた記憶があります。大学院  
終了後は口腔外科に戻るつもりでしたが、まわりの人  
に上手く丸め込まれて?、3年目の春にそのまま分  
子病理学教室の助手となり、現在まで口腔病理医、  
病理学研究者を生業としております。教授選では何  
度も辛酸を嘗めましたが、ようやく捲土重来を期すこ  
とができました。キャリアアップを考えている先生もい  
らっしゃるでしょうが、自ら自分の可能性を制限して  
しまわないこと、百折不撓を貫き通すことが肝要かと思  
います。

鹿児島大学は薩摩藩の藩校である造士館や、そ  
の後の旧制第七高等学校造士館などの流れを組む  
総合大学で、「進取の精神」「進取の気風」を理念とし  
て掲げています。歯学部も離島での臨床実習を行う  
など特色ある教育を実践しており、学術研究や国際  
交流も大変盛んです。病気の本質を解き明かすこと  
ができる病理学の魅力、最先端の分子生物学を駆使  
して世界と戦える病理学研究の魅力を学生たちに伝  
え、日本最南端の歯学部からひとりでも多くの口腔病  
理医や研究者を育成する所存です。

昭和大学歯学部と鹿児島大学歯学部は奇しくも設  
立年が同じであり、私も同じ年に生まれました。何か  
因縁めいた繋がりを感じております。まだまだ未熟者  
ですが、今後ともご指導、ご支援を賜りますよう宜しく

お願い申し上げます。最後になりましたが、昭和大学  
歯学部のますますのご隆盛を祈念して筆を置こうと  
思います。

## 大学院中間報告会を行いました

大学院運営委員長 弘中 祥司

令和2年度の大学院中間報告会が3月6日、3月2  
7日、4月3日、4月10日に行われました。大学院中  
間報告会とは、大学院生の研究の進捗状況や研究  
方法に問題がないか、指導教員と主査1名、副査2  
名で学位審査と同様に行う報告会で、大学院生には  
発表が義務付けられています。今回は、COVID-1  
9の蔓延に配慮して、マスク着用で席を離しての開催  
となりました。該当する大学院3年生は22名で、乙号  
の申請者も3名発表されていました。現在、世界中で  
ありとあらゆる学会が中止または、オンラインになっ  
ており、学会発表慣れしていない大学院生が多く見ら  
れ、こんなところにもCOVID-19の影響が及んでい  
る事を改めて痛感いたしました。幸いにも、研究時間  
は十分に取れている様子で、発表こそ慣れていませ  
んでしたが、内容は素晴らしいものが多かったように  
思えます。あと、1年で論文を仕上げなければなりませ  
んが、あと一息、頑張ってくださいたいものです。令和  
3年度からは、学士会歯学部例会とジョイントして中  
間報告会を開催する予定ですので、昭和大学歯学部  
の研究マインドをより活性化したいと考えております。  
大学院生のこれからの活躍を祈念しております。

## 認定医・専門医取得

広報委員長 野中 直子

日本小児歯科学会 専門医

志賀 正康(小児成育歯科学講座 普通研究生)

川島 翼(小児成育歯科学講座 兼任講師)

永田 夏琳(小児成育歯科学講座 助教・歯科)

## 行事予定

広報委員長 野中 直子

5月24日(月):特別奨学生採用式

シンシアー奨学生採用式

## 編集後記

歯科薬理学講座 唐川 亜希子

昨年度は初の緊急事態宣言下で静かすぎる新年  
度の始まりでした。現在も緊急事態宣言が発出され  
ておりますが、新入生が入寮するなど学生を取り巻く  
状況が改善されているのを実感しております。お忙し  
い中ご寄稿下さいました先生方に深謝申し上げます。